

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有	○地域密着型サービスとしての理念 現在の運営理念は開設(五年前)に作られたもので、地域密着型サービスの視点では作られていない。今後は地域性と利用者のニーズを中心に、新しい視点を取り入れ現状より、よりよいサービスが提供できる独自の理念を作り上げる必要がある。	○	現在の理念の良い点については継続していく。しかし、利用者の声にもっと近づいたものであり、地域の方や介護の現場の職員の意見も反映させた、地域密着型サービスとしての運営理念の再構築に取り組んでいく予定。
1	○地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	現在は個々が理念を認識してケアーに従事することだけに留まらず、職員同士が理念にあった介護が実践されているか確認しあうことが必要。その為には、デイスカッションする場を増やし適切な介護が出来るよう、更に努力を深めたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	ご家族向けに「意識確認」できるように、ホームページ内に運営理念が見える位置に掲示されている。しかし職員同士が互いに理念を共有しあっているかの確認については意識してケアーに従事する必要がある。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえように取り組んでいる	○	ご家族向けの広報誌「月刊あさひ」と、地域の広報誌「あさひ便り」に、繰り返し運営理念を掲載し、グループホームの役割と取り組みの姿勢を訴え続けている。入居時のご家族や来訪者には必ず運営理念を伝え説明している
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		広報誌を通じて、地域の方々やグループホームに気軽に立ち寄ってくださるように繰り返し呼びかけています。職員は利用者との散歩時に近隣のかたと会った時は、挨拶し言葉かけを行い利用者や隣近所の方との親近感が高まるよう心掛けています。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		町内会に加入し、可能な範囲で地域活動に参加するよう努めています。具体的には町内の清掃活動や育成会の廃品回収などに協力しています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(取り組んでいき たい項目)	取り組みでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	○印	まず第一に、地域貢献の意義と地域高齢者の現状を把握すること。それを根底に定期的にどんな支援を行えるか具体案を持って取り組んでいきたい。又実践してしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評面の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービソ向上に活かしている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	○	市の担当者との連絡を密にとり、さらに意見交換や情報交換を行い介護サービスの向上に繋げていきたい。またこちらからも、積極的に協力していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者や自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	○	今後も介護支援の基本姿勢を徹底し、人生の先輩である利用者には尊敬をもって接していく。暴言や攻撃的言動とならぬよう言葉掛けにも最長の注意を払い虐待防止を徹底する。法令の勉強への取り組みは管理者を中心に介護者の専門性を高めていく必要がある。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	<p>契約後も必要に応じて説明を重ねて、利用者や家族等に不安や疑問が生じないようにしていきたいと考えています。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>○家族等への報告</p>	○	<p>運営推進会議以外に、部外者による意見聴聞の機会がないので、第三者機関の活用が今後の課題です。</p>
14	<p>○家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>家族等には、開設以来様々なかたちで情報提供を行ってまいりましたが、今後は情報を整理して伝えることに工夫し、分かりやすいお知らせをしていきたいと考えています。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>部外者による意見聴聞の機会がないので、第三者機関の活用が今後の課題です。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>利用者や家族の個別のニーズに応じられるよう、可能な限りの配慮を行っています。現有の職員配置で対応できない場合、法人の協力を得て実施する場合があります。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、管理者や職員の異動や離職が利用者のダメージに繋がらないことを理解してはいるが、特に具体的な対策を持っていません。	○	利用者の受け持ち制を実施していましたが、各利用者には担当者を当てることにより、急な離職があった時に備えたい。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内の研修を受ける機会を確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同業者団体が実施する各研修には、資格や経験に応じて計画的に参加しています。また、法人が企画する様々な職種への参加機会が設けられています。	○	職場内での研修や勉強会の実施は時間の設定が難しく、ほとんど実施されていないのが実情です。今後実現に向けて取り組んでいきたいところです。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協議会の組織下で、地区の活動運営に関与しながら、近在の事業所と交流し、勉強会に参加したり情報交換を行っています。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	①法人理事者による個人面談の実施 ②同業者団体を通じて他のグループホーム職員との交流 ③法人親睦団体による職員の交流		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	業務に関連する各種の資格に応じた手当の支給がされています。また、これらの資格取得に際しては、必要な講習や試験が受けられるようシフト編成の段階で最大限の配慮を行っています。	○	目標管理の手法の導入を考えています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	O印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている	利用予定者には、面談を実施したり認定調査書によって確認するなど(場合によっては既に受けているサービス事業者や近隣住民などから)多角的に情報を収集するよう努めています。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている	入居予定者の家族からは、申し込みのあった家族以外に交流のある家族からも、利用者本人にかかわる情報を収集するよう努めています。		
25 ○初期相談の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族がその時「まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談があつた場合、ホームの見学、自宅の訪問を行いながら必要とする支援を検討しています。利用に適したと考えられる依頼者には、グループホームの機能を十分理解していただいた上で利用を勧めます。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族と相談しながら工夫している	利用予定者には入居前に慣らし期間を設け、ホームの雰囲気馴染んでいただいた上で入居日を設定しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は毎日の生活の中で得意にしている力を発揮できるように、調理等の家事や畑仕事、レクリエーション等様々な場面を作り、一緒に楽しみ支え合える工夫を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○甲 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	○	特定の利用者だけでなく、一人ひとりの利用者について家族との関係を深めるために、気づいた事知りたい事等がやりとりできる連絡ノート等を置くような工夫を行いたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	○	今後も家族と一緒に過ごす機会が増すような支援を充実させたい。
30	○なじみの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○	今後はもっと時間が確保できるような工夫を検討したい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている		施設へ移った方の元へ、利用者とともに訪問し、皆で喜び合える時間を作っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本意に検討している	職員は利用者一人ひとりに暮らし方の希望について、本人家族にアプローチし、アセスメントを行い、シートに記入し情報を共有している。	○	アセスメントシートを検討し、分かりやすく現実に合った方式になるよう充実をはかりたい。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	①入居前にケアマネジャーが訪問調査を行い、ご本人の状況と意向等の把握を行っている。 ②入居後は、職員が本人家族にお話を伺いながらアセスメントシートに記入し、情報を共有している。		生活記録は5年間変化無く使用しているが、より個別のケアに繋げるために、書式の変更を検討したい。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている	排泄等の記録表、生活記録、リハビリ記録等を記入し、一人ひとりの毎日の状況や変化について理解し、把握するよう努めている。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	①日頃のかかわりの中で、思いや意見を生活記録に残し、情報を共有し一人ひとりのアセスメントシートを作成している。 ②介護計画作成時には可能な限り本人家族から意見を聴き、アセスメントシートを軸に職員一人ひとりに意見を聴き個別具体的計画書となるよう努力し介護計画は定期的にモニタリングを行い、変化に応じたケアが行えるように連絡ノートを活用し、職員全員が共有できるようにしている。 対応できない変化の場合は、できる限り職員、家族、本人医師等と話し合い対応しているが、全てについて新たな計画の作成はできていない。	○	①職員全員がより意識が高まるような分かり易く個別のケアのアセスメントシートの改善を考案中である。 ②職員全員で意見交換ができる日程をつくり、モニタリング用紙を作成する等見直しを図っている。
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している		○	①月一回、現状と介護計画のずれが無いかを話し合うモニタリングを職員全員と実施するように取り組む。 ②ケアプランの作成を6ヶ月から3ヶ月に一回作成し直すように現在取り組んでいる。今後も本人の状態に合わせ、見直しを図って行きたい。

<p>項目</p>	<p>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</p>	<p>○印 (取り組んでいき たい項目)</p>	<p>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</p>
<p>38</p> <p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>職員は毎日、生活記録、リハビリ記録、排泄記録等に個別に記入し、変化が生じた場合は連絡ノートに記録する等、情報を共有し、アセスメントに繋げながらケアに活かしている。</p>	<p>○</p>	<p>より個別的な介護計画に繋げるために、詳細で分かりやすい生活記録に変更し、一日の生活が細かく把握できるように工夫を重ねたい。</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
<p>39</p> <p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>①本人家族の状況に応じて通院や送迎等の支援は柔軟に対応し、個別の満足を高めるように努めている。 ②入所予定者の訪問、宿泊、通所は本人家族の要望に応じ対応は行っているが、近隣の高齢者が利</p>		
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>			
<p>40</p> <p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関と協力しながら支援している</p>	<p>①地域(町内会)の代表者、家族や行政関係者と運営推進委員会を定期的に開催している。②消防署の協力により職員が普通救命講習を受けている。③社会福祉協議会にボランティアの紹介をお願いしている。</p>	<p>○</p>	<p>町内会の方や、ご家族と話し合いの機会を増やしたい。</p>
<p>41</p> <p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>協力医療機関や協力福祉施設が主催する行事(運動会、七夕バザー、盆踊り、クリスマス会など)に希望者が参加できるように支援し、グループホーム以外のサービス利用の機会を提供している。</p>		
<p>42</p> <p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括支援センターの代表者に運営推進委員になっていただき、ホームの情報を公開している。また、運営に関してご意見をいただいている。</p>	<p>○</p>	<p>今後は、地域包括支援センターとの協働により予防介護について取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している ○認知症の専門医等の受診支援	母体の医療法人が経営する病院の医師が主治医であり、医療連携体制が確立されている。		
44 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している ○看護職との協働	母体の医療法人が経営する病院が精神科を標榜しており、専門の医師が確保されている。		
45 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている ○早期退院に向けた医療機関との協働	母体の病院の医療従事者による健康管理が実施されている。また、相談体制も確立されている。 入院期間や退院について、適宜医療機関と連絡をとっている。		
46 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	当事業所では、常時医療従事者が配置されていないので、ターミナルケアには限界があるが、利用者側には繰り返し説明を行い、重度化や終末期に向けた対応について理解をいただいている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のありかたについて、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期を迎えた場合は、母体病院への入院を含めた医療機関での対応をお願いしている。		
48 重度化や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できるだけできないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいく。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている		○	チームケアにより利用者に対してどのような支援ができるのか、事業所として検討を重ねていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) (退居後の受け入れ先と連絡連携を取りながら円滑な支援を行っている。)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるゲーム機の防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮するためにも大きな声で誘導しない。また排泄の誘導、失禁の対応には不安のないように常に配慮している。プライバシーを損ねるような記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	○	スタッフの間でメモ等での情報交換、または記録の徹底をしていきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らすように支援をしている	常に笑顔で対応し、スタッフは入居者様一人ひとりの人格を尊重した行動をしている。行動を起す前には必ず入居者様に声掛けし、意見を尊重している。		スタッフの人数が少なく毎日一人ひとりの希望に副えない場合は、時間を調整して対応することや、隣のユニットの協力を得るなどして行きたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の趣味や以前の経験を暮らしの中に活かし、その人の力を発揮してもらおう心がけている。常に入居者の希望を聞くが、必ずしも希望に副えないこともある。	○	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	常に声掛けにて洗顔、更衣等を行っている。また、整髪は一月毎に理美容院の出張にて本人が望む髪型(カット、パーマ、カラー)にしているが、希望のある場合には本人の望む店で実施している。	○	整髪することにより気分転換が図れるが、施設内だけでなくお店で実施すると良い刺激になると思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている。	○	一週間分ぐらいの献立を利用者と相談して決める と更に良いと思う。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	○	現在、お酒や煙草を嗜む利用者はいませんが、これまででの生活習慣を支援して行きたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	○	排便の確認は困難な場合もあるが、利用者のプライドや羞恥心を考慮しながら確認をして行きたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイムゾーンの合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	○	これまでの生活習慣や希望に合わせて入浴を楽しんでもらえるよう工夫して行きたい。(朝風呂、夜間入浴など)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		利用者が興味のあることや得意なことを把握し、無理強いないで、生活の中でさりげなく持っている力を発揮していただいている。また、遠出の外出や外食、行事参加の楽しみごとを本人と相談しながら行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことでの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○	買い物支援の場面を増やして、お金の大切さや買い物の楽しさを実感していただけるように支援したい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	○	一人ひとりに合わせた外出支援を充実させたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	○	①家族参加の機会を増やして行きたい。 ②個別に普段行けない場所への外出支援も取り組んで行きたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○	手紙を書く場面を設けたい。(年賀状、暑中見舞い等)
64	○家族やなじみの人の訪問支援 家族、知人、友人、本人のなじみの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	○	事情により会いに来られない家族のもとにスタンプとともに行く機会を設けているが、もっと増やして行きたい。
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	○	マニュアルを定期的に見直す。
○身体拘束をしないケアの実践		○	マニュアルがあり、身体拘束のないケアが実施されている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していないが、危険防止のため、玄関のドアが内側から開かない対策をしている。	○	家族にも理解していただいているが、自由に行き来できる方向で考えたい。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のフライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者の様子を把握し、ひとり一人の所在を確認しながら対応をしている。夜は安眠できるようにしている。	○	情緒の安定をはかり、夜間は安眠できるよう支援する。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ひとり一人のできることを観察把握して、その人にあった物品を使ってもらおうよう見守っている。	○	職員で話し合いを重ね、常に入居者の状態を観察把握して、危険のないようにしたい。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「ヒヤリハット・事故報告書」の情報を職員間で共有し、再発防止に備えている。	○	職員全員で再発防止の話し合いや、介護の取り組みについて検討をして行く。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員は消防署の救命講習を受講し、緊急時の対応に備えている。	○	消防署の救命講習が3年毎なので、毎年救命技術を研修できるように、地元消防署と話し合いをしている。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルを過去に作成している。	○	必要なときに実行できるよう、定期的な見直しをしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす動きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態やカに合わせた支援をしている</p>	○	清潔保持の必要性や方法をスタッフが習得できる機会を増やしていきたい。
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態やカ、習慣に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇甲 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルに従って実施されている。インフルエンザ予防対策として、(同意の下で)毎年予防接種を行っている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用器具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の衛生保持(器具の消毒)を行っている。週2回の買い物により、食材を長期保存することが無いよう、適量購入し、消費期限に注意して使用管理している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先、駐車場などに花木を植えて親しみやすい雰囲気作りに心がけている。また、広い玄関スペースも威圧感を与えないように季節の飾りつけで工夫をしている。利用者と職員が一緒になって草花の世話や手入れを行っている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安心して落ち着けるよう花壇で育てた花を飾ったり、中古の家具を活用して馴染みの空間を演出し、家庭的な雰囲気を行っている。大きな壁も、四季折々の飾り付けで季節感を味わえるようにしている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りなれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は十分なスペースがあり、居室や小上がりがり、食堂、廊下を利用して利用者が思い思いの自由に寛げる空間になっている。	○	利用者の状態に配慮し、その都度快適に過ごせる環境を提供して行きたい。

項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	軍筒、仏壇、小型冷蔵庫、テレビ、ベッド、カー ペット、椅子など様々な家具調度が居室に持ち込 まれている。	
84	〇換気・空調の配慮 気になるにはおいや空気のだよみかかないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	個人スベース、共有空間とも適宜換気が行われ、 暖房の調節は職員が実施している。利用者一人ひ どりの希望を聞きながら実施されている。	

(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

85	〇身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	洗面台、食堂テーブル、椅子など利用者の身体 状況に合わせて高さの調節や改修が必要に応じて 実施している。また、浴室、脱衣場もADLに合うよう に手摺を設置している。	〇 その都度、可能な改修等は実施しているが、費用 等の面で直ちに実施できないものについては、継続 して取り組んで行きたい。
86	〇わかる力を活かした環境づくり 独りひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	ホーム内を整頓し、利用者が混乱しないように配 慮し、居室内外、トイレ等も利用者が理解できるよ うな工夫がされている。(居室前の名札や写真、ト イレの表示、軍筒や洗面具入れのラベルなど)	〇 利用者の日常の変化を見逃すことなく、状態を観 察してひとり一人のわかる力を活かして行ける環 境を整えて行きたい。
87	〇建物の外周りと空間の活用 建物の外周りやべらんだ利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	玄関、中庭にはベンチを設置。花壇や菜園を設 け、気軽に休憩や園芸などを楽しめるようになって いる。 中庭にパーキング場を設け、楽しみながら体力 づくりができるようになっている。	〇 中庭の一部に砂利が敷かれており、利用者の歩 行に障害となっているので、今後改善の有無を検討 したい。

V.サービスの成果に関する項目

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない <input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどない

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/> ①大いに増えている <input type="checkbox"/> ②少しずつ増えている <input type="checkbox"/> ③あまり増えていない <input type="checkbox"/> ④まったくいない <input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> ②職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ③職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない <input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
98	職員は、活き活きと働いている	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> ②職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ③職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない <input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
99	職員から見ても、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない
100	職員から見ても、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力をいれて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)